

平成28年度第1回高知県医薬連携及びセルフメディケーション推進協議会

議事録

日時：平成28年6月29日 19:00～21:00

場所：高知共済会館 4階「浜木綿」

出席者：高知県医薬連携及びセルフメディケーション推進協議会委員 7名
事務局 5名

◆開会挨拶

医事薬務課 西森課長より開会の挨拶があった。

◆議事（1）会長及び副会長の選任

高知県医薬連携及びセルフメディケーション推進協議会設置要項第3条に基づき、会長に西森委員、副会長に刈谷委員が選任された。

◆議事（2）患者のための薬局ビジョンの推進事業について

◆事務局よりかかりつけ薬局・健康サポート薬局の概要について説明があった。

意見等

Q1.（委員） 現状、かかりつけ薬局として機能している薬局はどれくらいあるか。

A1.（事務局） 昨年10月にビジョンが示され、この4月に診療報酬の改定があった。その中で、かかりつけ機能を評価する保険点数がついている。県内に402薬局あるが、このかかりつけ薬局、薬剤師の評価に対する届出を厚生支局に行っているのは6月2日現在で県内に156薬局である。この届出を行っているかかりつけ薬局は診療報酬上のかかりつけ薬局であり、本日はすかかりつけ薬局とは若干違っている。

Q2.（委員） なかなか線引きが難しいが今後のサポート薬局の数の目標があるか。

A2.（事務局） 国の考え方は2025年までに中学校区に1つ以上のサポート薬局を整備したいということであり、これを県内に当てはめると、120前後が国が目指している数である。ただし、本県は一昨年からは健康相談応需などを行っている健康づくり支援薬局が現在176薬局ある。今後はこの健康づくり支援薬局に健康サポート薬局になって頂きたいと考えている。

Q3.（委員） かかりつけ薬局はすべての薬局が同じ機能を持つということで大病院の前の薬局も町の薬局も同じ種類の薬を揃えて、すべて同じような対応をする薬局に統合していくということか。小さな薬局もすべての薬を揃えるのか。そ

れは可能なのか。

- A3. (事務局) 費用的には無理があるが、そこをカバーできる連携が今後重要になってくる。薬品が揃うかどうかは地域の事情もあり、一薬局ですべて完結できることは少ないと思うが、今後は連携を密にすることでうまく対応したい。
- Q4. (委員) 24時間対応については普通の患者が色々相談することで点数が発生するのか。
- A4. (事務局) 基本的には相談では発生しない。

◆事務局より「高知家健康づくり支援薬局を活用した健康づくりの推進」について説明があった。

意見等

- ・(委員) 高知市としても特定健診受診率の向上を目指しており、高知家健康づくり支援薬局の力を借りて市民の方に特定健診の受診を啓発していきたい。
- Q1. (委員) 高知家健康づくり支援薬局認定制度は続けていくか。
- A1. (事務局) 当分の間は続けていくが、一方で支援薬局がかかりつけ薬局が持つべき機能を強化していき、健康サポート薬局になれるよう研修制度等の支援を薬剤師会と県で行っていきたいと考えている。2025年には地域の薬局すべてがかかりつけ薬局になるという目標がかかげられているのでその頃を目途に高知家健康づくり支援薬局の制度について検討をしていく必要があると考えている。
- Q2. (委員) 県民の「健康づくり支援薬局」への認知度が低かったようであるがどのように認知度を上げていくか。
- A2. (事務局) 啓発資材の作成、配布。県の広報誌などを利用し、認知度を上げる活動を行っていきたい。あわせて、健康パスポートと一緒に取り組みをしていくなかで健康づくり支援薬局の認知度も上がるように活動していきたいと考えている。

◆事務局より「在宅医療への薬局・薬剤師の参画の推進」についての説明があった。

意見等

- Q1. (委員) 情報共有シートはどのようなものと考えているか。
- A1. (事務局) 情報共有シートは薬剤師会の支部長などが中心となり地域の薬剤師がケアマネジャー、訪問看護師などと協議しながら、現場に合ったものを作成。作成は薬剤師会の支部長などが中心になって作成することを想定している。薬剤師の支部長が中心になり作成することを想定している。
- ・(委員) 訪問看護ではノートを使用してヘルパーなどと残薬等の情報を共有している。

- ・(委員) 病院薬剤師は地域連携を進めておりケアマネ、ソーシャルワーカーなどと連携する動きはあるが、事例はまだなく今後の課題である。

◆健康長寿政策課より「健康パスポート事業」について説明があった。

意見等

- ・(委員) 販売と結び付かないように注意したい。健康相談などを中心に行っていきたい。

Q1. (委員) 事業所の参加はボランティアなのか。

A1. (事務局) パンフレットに協力してもらえる企業を掲載する。また、8月に専用ホームページを立ち上げるのでそのなかで協力企業の紹介をする。それが集客につながるのではないかと考えている。

Q2. (委員) 目標が3万人2千人に配布ということであるがそれは多いと考えているのか

A2. (事務局) 20歳以上の県民の20人に一人というカバー率である。もっとたくさんの人に持っていただきたいと考えている。

Q3. (委員) 禁煙したらパスポートがゴールドになる、特典が良いものになどということはないのか

A3. (事務局) そこまではまだ考えが及んでいないが、バージョンアップのしくみは考えている。

◆事務局より高知家健康づくり支援薬局認定制度実施要領の改正(案)について説明があった。

◆次回開催日時

平成29年2月頃予定